

街道を歩く

草津本陣

本陣2軒はいずれも田中姓。田中九蔵、田中七左衛門九蔵家は文禄期にすでに伝馬の継ぎ立てをしていた。七左衛門家は寛永年間(1624-44)に本陣拝命。現存。宿帳には皇女和宮、吉良上野之介、浅野内匠頭など記録残る。



立木神社

創建は神護景雲元年(767)祭神常陸の鹿嶋明神(武甕槌命)社伝によると鹿嶋より影向ときこの地の榊の立木に遷座した後大和に遷座したという。



野路の玉川

この道標は享保15年(1730)高さ5尺のものが建てられたが旅人に見難いとうことで寛政10年(1790)に矢橋の船持ちによって建てられた。瓢泉堂今はひょうたん他民芸店、うばがもち店1号線に。

文治元年(1185)源平合戦壇ノ浦で義経に敗れた平氏の総大将宗盛と長男清宗と共に捕虜となり鎌倉に連行されるが鎌倉に入らず京都に戻される途中、宗盛は篠原斬首され、清宗は此处で斬首される。首は京都六条河原に晒される。(享年17歳)



野路小野山製鉄所跡

奈良時代の製鉄の産地。瀬田の丘陵地の北面に位置し周辺に2-3の製鉄跡と窯跡が残る。調査の結果大鍛冶跡を中心に7軒以上の工房、炉の跡が確認された。8世紀ごろの操業と思われる。国史跡

追分 中山道との分岐、明治19年にトンネルが掘られると東の覚善寺前に移動

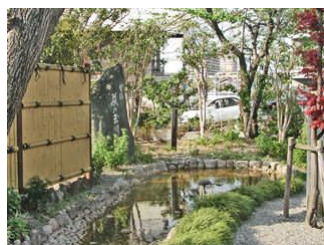
東海道近江:06伊勢落一目川一草津一矢倉一野路

草津宿 石部宿より2里半17町54間。本陣2、脇本陣2、旅籠72、町並み南北7町15間半東西4町38間。近江にある宿の中では最も短い宿中山道との分岐点。村は膳所藩支配、宿は幕府の支配下にあった。



鉤の陣跡

室町19代將軍足利義尚は近江における公家寺神社領を回復すべく六角高頼を討伐すべく出陣し、長期化に備え延暦寺僧真宝坊の居館(近くの安養寺)に陣をおいた。"鉤の陣"六角高頼は甲賀に逃亡。義尚はこの陣で日々歌会、古典購読など学問芸事を嗜んだ。2年後此处で病没。以後廃れる。



野路の玉川

この辺り一帯萩が咲き乱れ、玉のような泉が湧き出ている故事に由来。詩歌の歌枕として有名。野路は平安一鎌倉時代にかけて宿場があった宿が草津に移動してから寂れる。"あすもこむ野路の玉川萩こえて色なる波に月やどりけり" 千載集 源俊頼

六玉川

京都 井手の玉川 桜と山吹
宮城 野田の玉川
東京 調布の玉川 萩
滋賀 野路の玉川
大阪 砧(きぬた)の玉川 卯の花
和歌山 高野の玉川

旧和中散本舗

かつては5軒ほどあった和中散本舗、本家の是齋のみ現存。大角弥右衛門氏宅。茶屋本陣も兼ねていた。和中散は生薬を粉にした胃薬。家康もこの薬を飲み腹痛が治ったとゆうことから和中散と名づけたという。街道南側、本屋、書院、庭園……。北側馬つなぎ、薬師堂……。本屋店先には石臼のある仕事部屋残る。

